

世田谷・九条の会

世田谷・九条の会

ニュース 号外

2015年7月13日発行

(題字 西山簡石)

●事務局 〒154-0017 世田谷区世田谷 1-11-16 世田谷民商気付

Tel 03-6413-9547 Fax 03-6413-9548

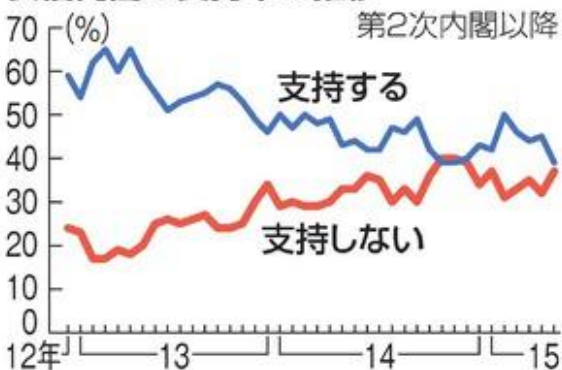
●ホームページ <http://www.7a.biglobe.ne.jp/~setgagaya-9jou>

●郵便振替口座 記番号 00110-5-260741 世田谷・九条の会

国会内外の声をいっそう高め、戦争法案を 廃案に追い込みましょう！

安倍自公内閣は、衆院委員会での審議時間が80時間を超えたとして、「安全保障法案」の衆議院採決を7月15日にも強行しようとしています。国会内では、自民党・公明党は多数を占めています。しかし、6月4日の憲法審査会で、与党推薦の憲法学者を含めて3名全員が「違憲」と回答し、9割をこえる憲法学者や日本弁護士連合会等が「違憲」と声をあげたことを大きな契機として、国会周辺をはじめ、各地で連日のように反対の声をあげる集会やデモ・パレードが展開されています。直近の調査（朝日新聞社、共同通信社6/20-21実施）では、この法案に53%、58.7%が反対と答え、とくに今国会での法案成立には、いずれも6割を超える反対が出ています。歴代内閣法制局長官、自民党の幹事長経験者ら重鎮からも安倍政権の「暴走」を諫める発言が次々に出るにいたっています。

安倍内閣の支持率の推移



安倍内閣支持率の推移(電話世論調査)

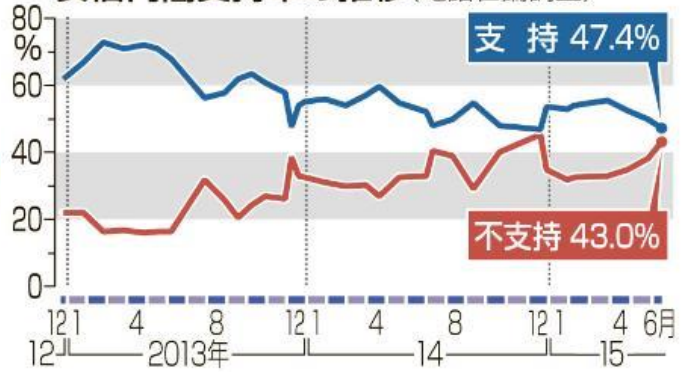


図 左)朝日新聞社(6/21-22)、(右)共同通信社(6/21-22)

国会中継をテレビやラジオで視聴された方は、お感じになっていると思いますが、安倍を筆頭に閣僚は誠意のないおうむ返しの答弁を繰り返し、国民の疑念にまともに答えず、ただひたすら時間を費やすことに汲々としています。世論調査では、84%が「丁寧な説明になっていない」と回答しています（共同通信）。メディアがこのように内閣の姿勢に批判的になって来たと見るや、自民党内の「勉強会」では、「沖縄の新聞社をつぶせ」、「新聞社に広告収入が入らないように経済界に働きかけろ」という「報道規制」の暴言が出る始末です。朝日新聞でも共同通信でも6月末の世論調査では、安倍内閣の支持率は39%と4割を切るまで下がって不支持率と拮抗するまでになっています（図参照）。急速に反対運動が広がりを見せている今、戦争法案をめぐるたたかいは、まさに山場にさしかかっています。

この法案が日本国憲法に違反していることは言うまでもありません。しかしそれ以上に、先の戦争を侵略戦争であったことを認めず、米国の主張を無批判に受け入れる現在の安倍内閣のもとでは、この法案が米国の指示にしたがって、自衛隊員を戦闘地域に送り込み、殺し殺される極限の恐怖に陥れることは火を見るより明らかです。今、世田谷・九条の会では、全国の九条の会、区内各九条の会と連携して、宣伝・署名活動や集会への参加を呼びかけています。世田谷区民の良識を総結集し、この危険な暴政を食い止める活動にお力をお貸しください。

戦争法案反対で、宣伝と国会署名活動を展開

7.2 宣伝行動に9人、宣伝カーを使い区内4箇所ですえ 署名72筆

世田谷・九条の会事務局では、7月2日（木）の午後1時より、区内4箇所（上町、経堂、用賀、桜新町）をまわり、各所でそれぞれ40分間、スピーカーでの訴えと、署名活動に取り組みました。この宣伝活動では、吉原公一郎さんに手書きの「戦争法案廃案

に！」という横断幕をご用意

いただきました。いずれもスーパーの前での宣伝活動で、買い物時間には少々早いタイミングでしたが、ころよく署名に応じてくれる人、「がんばれよ！」と言って自転車で過ぎる人、予想以上に強い反応があつて勇気付けられました。93歳という男性は、戦時中広東に出征させられたそうですが、「戦争はあなた方が



考えている以上にひどいものだ。あなたたちの反対運動は甘いよ。」と、最初は断られるか、叱られると思ったのですが、すぐにペンを取って署名してくれました。私たち以上に、今の情勢に危機感を感じている戦争経験世代がいるということの思い知らされる一幕でした。こちらが声をかける前に署名を申し出てくれる人も少なくなく、事務局では、7月14日（火）に再度、場所を変えて署名と宣伝活動を予定していて、署名簿を山場の国会に届けることにしています。（午後1時からの予定です。今後も行動を考えていますので、ご協力いただける方は、事務局まで電話、ファックス、メールのいずれかでご連絡ください。）

戦争法を許すな！集团的自衛権行使反対！戦争する国づくりNO！

6.25 世田谷区民集会に350人が参加



区労連、区職労などの労働組合、原水協、原水禁、さよなら原発、婦人団体、世田谷・九条の会などの代表32人が呼びかけ人となった6.25集会は、区役所中庭で開かれ、350人が参加しました。集会には保坂展人世田谷区長があいさつに訪れ、各団体代表の決意表明の後、集会アピールを採択して、三軒茶屋までデモ行進しました。印象深かったのは、若

い青年・学生が、6月14日に区民会館で1,000人超の集会をもち、その後渋谷で飛び入り参加を含めて3,000人以上の大デモンストレーションに膨れ上がったと報告したこと、集会アピールを若者らしい、力強い声で高らかに読み上げたことでした。

世田谷では、先の一斉地方選で保坂区長のダブルスコアでの勝利を勝ち取った、政党・会派を超えた幅広い共闘が実現しています。この力に依拠して戦争法案の廃案めざし、さらに運動を進めて行きましょう。

【6.25 世田谷区民集会アピール】

本集会は、「戦争法を許すな！集团的自衛権行使反対！戦争する国づくりNO！」の一点で世田谷に在住、在勤の32氏の呼びかけで開催されました。

集团的自衛権行使を具体化する「平和安全法制整備法案」は、これまで禁じられていた「戦闘地域」への自衛隊派兵を認め、「周辺事態法一部改正案」では、「重要影響事態」（＝日本の経済や社会に重要な影響を与える事態）と政府が判断すれば、「日本周辺」に限らず世界中でアメリカの戦争支援を可能にし、「武力攻撃事態法一部改正案」では、日本が攻撃されていないのに



「存立危機事態」と政府が判断すれば参戦するしくみをつくろうとしています。さらに「自衛隊法一部改正」、国連平和維持活動（PKO）法をも改定し、国連決議のない活動にも自衛隊の派遣を可能にしようとしています。まさに、日本を「戦争する国」に変える「戦争法案」といわざるをえません。これは、憲法9条の破壊、立憲主義の破壊であり、許されません。

6月22日、自民、公明の与党は、通常国会の会期を95日間延長することを強行しました。異例な大幅会期延長は「戦争法案」成立への安倍政権の異常な執念を示しています。

6月4日の衆院憲法審査会で小林節さん他、憲法学者全員が「違憲」と指摘し、会期内の審議でも「戦争法案」が憲法違反の法案であることが明白になっています。「戦争法案」反対の声は、憲法学者だけでなく、学者、法律家、弁護士、演劇人、労働者、女性、青年など広範に広がっており、6月24日の集会には30,000人が国会を包囲、「戦争法案」反対の世論は沸騰しています。

朝日新聞社が5月16、17日に行った全国世論調査では、安全保障法制の関連11法案について、いまの国会で成立させる必要性について、「必要はない」が60%で「必要がある」23%を大きく上回っています。共同通信社が6月20日・21日に実施した全国世論調査では、安全保障関連法案が「憲法に違反していると思う」との回答は56.7%に上り、「違反しているとは思わない」29.2%を大幅に上回っています。今国会成立に「反対」は63.1%で、「賛成」は26.2%。安倍政権が法案について「十分説明しているとは思わない」は84.0%にも上っています。会期延長により成立強行は許されません。ただちに廃案にすべきです。

大幅に会期が延長された国会でも、論戦での追求とともに、「戦争法案」を許さない国民の世論と運動で安倍政権を包囲し追い詰め、安倍政権の進める憲法破壊の暴挙を打ち破りましょう。

世田谷から国民世論を広げ、今を生きるものとして、ともに声をあげ、行動にたちあがりましょう。

2015年6月25日

「戦争法を許すな！集团的自衛権行使反対！戦争する国づくりNO！」6・25世田谷区民集会

戦争に駆り出されるのはわたしたち、青年もだまっていられない！



6/14 世田谷区民会館での集会後、渋谷をパレードする青年たち

http://static.blogos.com/media/article/116687/ref_1.jpg

6月14日（日）、SEALDs（自由と民主主義のための学生緊急行動）ら、青年・学生が呼びかけた集会が世田谷区民会館で開かれました。この集会には、1,600人の若者が参加し、集会後、渋谷で大規模なパレードを展開しました。この渋谷でのパレードには、次々に飛び入り参加者が出て、参加者は、総勢3,500人を超えたとされています。このような運動は、札幌市での「戦争したくなくてふるえる」など、今全国各地で展開され始めています。ここでは、6月14日の若者憲法集会を呼びかけ、参加した世田谷在住の青年の声を紹介します。

若者憲法集会とその宣伝に参加した私が感じたのは、若者の間に政治的な話題を避けたがる傾向が根強くあるということであった。

ある日、私は某大学の最寄り駅で若者憲法集会の宣伝をしていた。それまでの駅頭宣伝では、それなりに若者達が署名をしてくれたり、話を聞いてくれたりなどしていたから、かなり若い人も政治に興味を持っていると思っていた。だが、宣伝を始めてみれば、誰も話を聞くどころか、若者憲法集会のチラシさえ、受け取ってくれなかった。そればかりか、私達に冷めた視線を向けて来る人もいた。

私は彼らを責める気にはなれない。なぜなら、若者は政治の諸問題がどう自分と関係してくるか、という発想が無かったからだ、と若者の一人として思うからだ。

しかし、それは幸せなことではなかったか。政治に興味を向けなくても、戦後七十年の歩みは、数々の問題があったとはいえ、ある程度生きていける、平和で豊かな日本を作りあげてきたのだと思う。

しかし、現在安倍政権が進めている、戦後七十年の平和で豊かな歩みを無に帰そうとする動きの中で、若者達は政治と自らの関係を問い直し、デモに街宣に立ち上がりつつある。

この大きな動きの中で、戦争法によって甚大な被害を受けるであろう若者の一人として、世田谷から青年全てが戦争法案や、その他若者に不利な法案にNOをつきつけてゆく運動を作り上げて行きたい。
(小野田誠太郎)

追悼・高岡岑郷さん

橋本 博（世田谷・九条の会事務局長）

本会の事務局の高岡岑郷さんが、6月26日に亡くなりました。代田・九条の会、九条の会東京連絡会、東京革新懇、国民学校一年生の会など、平和の広い分野で活動されていました。5月9

日の「近況報告」には、「4月に入ってから、左腰のあたりが痛くて歩きづらくなっていました」「4月13日から、会議や行動などに出席が適いません。腰部激痛で、歩行出来ず、立っていることも苦痛」

「5月7日、医師より原発性肺癌と宣告され、肝臓へ転移している」「11日に入院」予定とあります。

中目黒の東京共済病院に入院されて、1か月半のあまりに急な死です。享年80歳でした。

高岡さんの的確・迅速な判断力、企画力に、どんなに私たちは助けられたかわかりません。詩人だけあって言葉の使い方に厳しい人でした。昨年10月、世田谷革新懇シンポでのメディアの右傾化に

ついでの高岡さんの報告、昨年12月の本会9周年ついででの浜矩子さんの講演に先立つ高岡さんの主催者あいさつは、高岡さんの本領が出ていて、聴く者に感銘を与えました。

高岡さんが繰り返し強調した、日本を「戦争する国」にしない闘い。その遺志を私たちは引き継ぎます。高岡さん、ありがとうございます。ご冥福をお祈りします。